

ご存じでした? 日本赤十字社と新島八重の深い関わり

History
赤十字ヒストリー

～戦う女武士から日本のナイチンゲールへ～

今、NHKで放映の大河ドラマ「八重の桜」。
綾瀬はるかさん演じる主人公、山本(新島)八重。会津藩の砲術師範の家に生まれ男勝りに育った八重は、女性でありながら砲術を身に付け、明治元年の戊辰戦争の際には、男装して会津・若松城に立て籠もり、銃を手に戦いました。エネルギーに明治を生き抜いた彼女は、夫から「ハンサムウーマン」と称されました。そんな八重さん、実は日赤ととても深い関わりがあるのです。
会津での敗戦により、生きがいとしていた銃を捨て京都へ。兄・覚馬の勧めにより京都女紅場(現在の京都府立鴨沂高等学校)に務め、新たに「知識」という生きがいを得ます。そしてその頃、学校を作ろうと動いていたアメリカ帰りの新島 襄(じょう)と出会い結婚。襄は後に現在の同志社大学、同志社女子大学を開校します。



〈写真〉
新島襄・八重夫妻
1876年1月3日御苑内
柳原邸にて
J.D.デヴィス司式により
京都で初めてのキリスト
教式結婚式を挙げたところ
(同志社大学提供)

しかし、明治23年に襄が病死。同年4月26日、日本赤十字社の正社員(※1)になった八重は、何か社会に貢献できることはと看護の道を選びました。
明治27年、日清戦争が始まり、八重は日本赤十字社篤志(とくし)看護婦人会(※2)京都支会の看護婦取締として20人の看護婦を率い、広島で4ヶ月間の救護活動にあたりました。これが日本人初の看護婦による救護活動です。
明治29年には、日清戦争での功労から日本赤十字社特別社員に認定。翌30年には、日本赤十字社篤志看護婦人会京都支会幹事となりました。
明治37年、日露戦争では再び篤志看護婦として大阪で2ヶ月間の救護活動にあたりました。
看護学校で助教師として指導に当たりながら、積極的に戦時救護に努めました。八重の篤志看護婦としての功勞に対し、昭和天皇の即位の際、銀杯が授与されました。

「どんな苦境にあっても人は幸せでなくてはならぬ」激動の時代を、まっすぐ前を向き、たくましく生き抜いた八重からの力強いメッセージは、今を生きる私たちへ、そして日本に向けてのエールとなって響き続けます。

※1 年に3円以上12円以下または、一時もしくは数度に200円以上納めた寄付者
※2 皇族や華族の夫人が参加して組織された会。ボランティアナースとして無償で奉仕

日本赤十字社
篤志看護婦人会
京都支会からの修業証



青少年赤十字提供プログラム

提供プログラムでは、学校生活を通じて、大切ないのちを守るための知識と技術を学んだり、体の不自由な方や高齢者の介助の方法を体験したり、国内外の赤十字の活動等について実際に活動した職員等からのお話を聞いていただくことができます。学校教育のサポートとしてご活用ください。詳しくは、兵庫県支部奉仕課まで。

平成24年10・11・12月、平成25年1月に参加していただいた学校

- | | | | |
|---|--|---|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ● 健康・安全
(AEDを使った心肺蘇生)
宝塚市立長尾小学校
三田市立あかしあ台小学校
神戸市立西山小学校
尼崎市立大成中学校
神戸市立有野北中学校
兵庫県立川西明峰高等学校
兵庫県立西宮北高等学校
兵庫県立伊川谷高等学校 | <ul style="list-style-type: none"> ● 福祉教育
高砂市立伊保小学校
神戸市立西山小学校 | <ul style="list-style-type: none"> ● 国際理解・平和
高砂市立米田西小学校
高砂市立伊保小学校 | <ul style="list-style-type: none"> ● 防災教育
赤穂市立有年小学校
多可町立八千代中学校
姫路市立城乾中学校
兵庫県立明石高等学校
兵庫県立家島高等学校 |
| <ul style="list-style-type: none"> ● 健康・安全
武庫川女子大学附属高等学校
兵庫県立宝塚東高等学校
兵庫県立西宮南高等学校
兵庫県立星陵高等学校
兵庫県立伊川谷北高等学校
兵庫県立尼崎高等学校 | <ul style="list-style-type: none"> ● 国際理解・平和
高砂市立米田西小学校
神戸市立君影小学校
明石市立花園小学校
高砂市立曾根小学校
高砂市立北浜小学校
西脇市立西脇東中学校 | <ul style="list-style-type: none"> ● 防災教育
兵庫県立宝塚東高等学校
兵庫県立国際高等学校 | |

ひょうごの 赤十字

2013
FEBRUARY 2月

- あの日を忘れない、1.17ひょうご安全の日
- 姫路赤十字看護専門学校生、子どもたちと防災訓練
- ご協力ありがとうございました。「NHK海外たすけあい」キャンペーン
- 赤十字ヒストリー
- 青少年赤十字提供プログラム



 **日本赤十字社** 兵庫県支部
Japanese Red Cross Society

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1丁目4番5号
TEL.(078)241-9889 FAX.(078)241-6990
<http://www.hyogo.jrc.or.jp/>

あの日を忘れない、1.17ひょうご安全の日

～阪神・淡路大震災から18年。防災意識を新たに～

1月17日。

忘れることのできない18年前のこの日、兵庫県を襲ったM7.3(震度7)の阪神・淡路大震災。あの震災を忘れることなく経験と教訓を継承していくため、兵庫県ではこの日を「ひょうご安全の日」と定め、防災意識を新たにするための事業を推進しています。

当支部では同日開催された「1.17メモリアルウォーク(※)」の参加者の皆さんへ、社屋1階を休憩所として開放し、お味噌汁を炊出し提供しました。長い道のりを歩いて来られた皆さんは炊出しに長蛇の列を作り、赤十字防災ボランティアや職員から一人ひとりにお味噌汁をお渡ししたところ、「温まりました、ありがとう。」など感謝の声が聞かれました。訪れた約1,400人の皆さんは、休憩所に展示してある阪神・淡路大震災や東日本大震災での赤十字の災害救護活動パネルを見るなどした後、ゴールを目指していました。

一方、近隣のなぎさ公園では、神戸赤十字病院と兵庫県赤十字血液センターとともに、dERUのエアーテントを展開し、海上保安庁その他関係機関とともに海上防災訓練に参加。また、訓練以外の時間はテント内で心肺蘇生のミニ講習を開催しました。訓練を見学していた方々も多く、自分にも出来るいのちを救う方法として、皆さん真剣に心臓マッサージや人工呼吸、AEDを体験されていました。

また、同会場では兵庫県赤十字奉仕団32人の皆さんが、神戸から東日本に元気を届けようという気持ちを込めて、豚汁の炊出しを行いました。作りたての豚汁が無料で配られるとあって、準備した650食がなんと25分でなくなるほどの大盛況ぶりでした。

今回の「1.17のつどい」には、日本赤十字社の近衛忠輝社長も参加し、震災で犠牲となった方々への献花の後、奉仕団の皆さんを激励するため炊出しテントを訪れました。温かい豚汁に「とても美味しい。」と感無量で、奉仕団員の皆さんも社長の訪問に感激された様子でした。各会場で、1.17を思う、防災意識の高まる一日となりました。

(※)交通機関が途絶した大震災時の追体験として、緊急時の避難路、救援路となる山手幹線等を歩く。西宮市、神戸市須磨区等6カ所のスタート地点の他、事務所や学校から帰宅困難者としての「帰宅訓練ウォーク」もあり、それぞれがゴールのHAT神戸なぎさ公園を目指す。



奉仕団を激励する近衛社長



学生も参加した海上防災訓練



分刻みのスケジュールの中、社長も温かい豚汁でホットひと息



お味噌汁サービスには長蛇の列



炊出しテントで北野美智子委員長と(左から、近衛社長、藤原局長、北野委員長)

姫路赤十字看護専門学校生、子どもたちと防災訓練

12月21日(金)姫路赤十字看護専門学校が、姫路赤十字病院、院内保育所、兵庫県赤十字血液センター姫路事業所と合同で防災訓練を実施。看護学生をはじめ職員、園児等約170人が参加しました。

午前9時30分、震度6弱の地震が発生し看護実習室から出火。初期消火できずに血液センター前の駐車場に全員避難するという想定で行われました。

地震発生放送が校内を流れ、一斉に危険回避行動→火災への対処→近隣施設への通報と避難(避難の誘導を指示)と、訓練は順調に進められました。看護学生や血液センター職員は保育所の子供たちの手をひいて避難所へ誘導。不安で泣きだした子供を抱きかかえて避難する姿も見られました。

訓練後、柳副学校長、大西社会課長からの訓練全体の講評の中で、副学校長は「地震等の災害時には、慌てず落ち着いて行動し、自分の安全を確保したうえで、相互に助け合いましょう」と述べられ、学生達は防災への心構えを再確認する訓練となりました。



園児を抱きかかえ、急いで避難

ご協力ありがとうございました。「NHK海外たすけあい」キャンペーン

12月1日(土)から25日(火)まで行われた「NHK海外たすけあい」キャンペーン。今回も約750万円にも上るご協力をいただきました。お寄せいただいた寄付金は、紛争犠牲者や自然災害等への支援に役立てられます。

今回のキャンペーンは、東日本大震災での世界の国々からの支援を受け、今度は日本から世界に支援の手を差し伸べようと、「たすけあいを忘れない」をテーマに展開。当支部では12月の毎週土日に、ボランティア、学生、職員等、延べ250人が街頭募金で協力を呼びかけました。

ご協力をいただいた大勢の皆さま、本当にありがとうございました。今後とも赤十字の活動にご理解、ご協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。



12月28日、兵庫県赤十字奉仕団北野委員長から井戸支部長へ寄付金が手渡されました。

◇今年度のご協力いただいた寄付金 単位(円)

兵庫県赤十字奉仕団	2,045,465
兵庫県日赤有功会	2,894,331
特別赤十字奉仕団	172,564
青少年赤十字加盟校	133,852
街頭募金	405,162
兵庫県支部・施設	666,882
NHK	692,790
地区・分区、その他	497,948
合計	7,508,994

